

# 富士養鱒場だより

第230号

平成28年5月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji

## 平成27年のサケ科魚類の生産と魚病被害の状況

平成27年の静岡県におけるサケ科魚類の生産状況と魚病被害状況をまとめましたので報告します。

### 方法

県内でサケ科魚類の養殖業を営む経営体を対象にアンケート票を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量と被害額を調査しました。本調査の対象期間は平成27年1月1日から12月31日までの1年間です。

### 結果

#### 1 アンケート回答状況

魚種ごとの回答状況は表1のとおりです。

平成27年の経営体数はニジマスで1軒減少しました。実経営体数は33軒でした。

表1 アンケート回答状況

魚種	経営体数	回収数	回収率 (%)	経営体数 (H26)
ニジマス	15	15	100	16
ギンザケ	3	3	100	2
アマゴ	22	21	95.5	24
イワナ	7	7	100	7
その他 <sup>※1</sup>	4	4	100	5
計	51(33) <sup>※2</sup>	50	100	54(34)

※1 その他にはヤマメ、ブラウントラウト、カワマス、サクラマスが含まれる

※2 数字は延べ経営体数、括弧内は実経営体数

#### 2 魚種別生産状況

平成23年から27年までの5か年の生産量の推移は表2、生産金額の推移は表3、販売単価の推移は表4のとおりです。

平成27年の魚種別生産量の合計は1,207tで前年に比べ75t減少しました。生産金額は前年に比べ69百万円増加しました。

##### (1) ニジマス

平成27年のニジマスの生産量は1,046tと前

年に比べ72t減少しましたが、生産金額は710百万円と前年に比べ80百万円増加しました。販売単価(生産金額÷生産量)は679円/kgと前年から116円/kg上昇しました。

##### (2) ギンザケ・アマゴ・イワナ

平成27年のギンザケ、アマゴ、イワナの実生産量はそれぞれ34t、33t、71t、生産金額は37百万円、54百万円、65百万円でした。

表2 魚種別・年別生産量(t)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H23	1,508	46	57	48	5	1,663
H24	1,279	38	39	85	8	1,450
H25	1,450	17	32	73	10	1,582
H26	1,118	11	37	95	21	1,282
H27	1,046	34	33	71	22	1,207

表3 魚種別・年別生産金額(百万円)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H23	666	45	78	45	6	840
H24	622	48	54	70	7	801
H25	802	28	50	67	9	956
H26	630	29	51	87	19	816
H27	710	37	54	65	19	885

表4 魚種別・年別販売単価(円/kg)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H23	442	986	1,370	931	1,106	505
H24	486	1,247	1,378	824	931	552
H25	553	1,687	1,565	913	858	604
H26	563	2,724	1,376	919	899	636
H27	679	1,070	1,665	913	869	734

#### 3 魚種別魚病被害状況

平成23年から27年までの5か年の魚病被害量は表5、被害金額は表6、平成26年と27年の魚種別・疾病別の被害状況は表7、表8のとおりです。

平成27年の総被害量は94.7t、総被害金額は82,755千円で、前年に比べ総被害量は14.6t減

少したものの、総被害金額は 2,470 千円増加しました。生産量に対する被害量の割合は 8.0%、生産金額に対する被害金額の割合は 9.6%でした。

(1) ニジマス

平成 27 年のニジマスの被害量は 80.5t、被害金額は 54,950 千円で、前年に比べ被害量は 24.7t、被害金額は 17,345 千円減少しました。疾病別では IHN の被害量が多く、次いでミズカビ病、レンサ球菌症、ピブリオ病の被害量が多

くありました。

(2) ギンザケ・アマゴ・イワナ

平成 27 年のギンザケ、アマゴ、イワナの被害量は、ギンザケでは被害が無く、アマゴ、イワナではそれぞれ 13.8 t、0.4t、被害金額は 27,248 千円、557 千円でした。疾病別ではアマゴのせっそう病の被害が多く見られました。

(佐藤孝幸)

表 5 魚病被害量

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H23	92.4	1.1	2.4	0.2	96.1
	6.1	2.4	4.2	0.4	5.8
H24	77.3	0	2.4	2.4	82.1
	6.0	0.0	6.0	2.8	5.7
H25	81.5	0.2	3.4	1.5	86.7
	5.6	1.2	10.5	2.1	5.5
H26	105.2	0	3.8	0.3	109.3
	9.4	0.0	10.1	0.3	8.7
H27	80.5	0	13.8	0.4	94.7
	7.7	0.0	42.5	0.5	8.0

上段：被害量 (t)  
下段：生産量に対する割合 (%)

表 6 魚病被害金額

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H23	57,756	850	3,228	895	62,729
	8.7	1.9	4.1	2.0	7.5
H24	61,492	0	3,402	2,427	67,321
	9.9	0.0	6.3	3.5	8.5
H25	63,158	100	3,731	1,427	68,416
	7.9	0.4	7.4	2.1	7.2
H26	72,295	0	7,500	490	80,285
	11.5	0.0	14.6	0.6	10.1
H27	54,950	0	27,248	557	82,755
	7.7	0.0	50.3	0.9	9.6

上段：被害金額 (千円)  
下段：生産金額に対する割合 (%)

表 7 魚種別・疾病別被害量(kg)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
IHN	45,700	0	42	0	45,742
	65,060	0	0	0	65,060
ピブリオ病	1,500	0	0	0	1,500
	1,500	0	0	0	1,500
せっそう病	0	0	13,403	300	13,703
	100	0	2,100	300	2,500
冷水病	1,500	0	52	0	1,552
	1,810	0	50	0	1,860
レンサ球菌症	10,000	0	0	0	10,000
	6,200	0	0	0	6,200
細菌性鰓病	800	0	0	0	800
	1,000	0	1,500	0	2,500
カラムナリス	2,000	0	0	0	2,000
	0	0	0	0	0
白点病	0	0	0	0	0
	250	0	0	0	250
ミズカビ病	14,000	0	319	50	14,369
	27,000	0	25	0	27,025
ラッシュ	2,000	0	0	0	2,000
	0	0	0	0	0
不明	3,000	0	0	0	3,000
	2,300	0	100	0	2,400
合計	80,500	0	13,817	350	94,667
	105,220	0	3,775	300	109,295

上段：H27年  
下段：H26年

表 8 魚種別・疾病別被害金額(千円)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
IHN	32,620	0	84	0	32,704
	40,945	0	0	0	40,945
ピブリオ病	1,200	0	0	0	1,200
	1,400	0	0	0	1,400
せっそう病	0	0	26,702	500	27,202
	100	0	4,200	490	4,790
冷水病	950	0	105	0	1,055
	3,450	0	50	0	3,500
レンサ球菌症	5,000	0	0	0	5,000
	3,500	0	0	0	3,500
細菌性鰓病	480	0	0	0	480
	650	0	3,000	0	3,650
カラムナリス	1,000	0	0	900	1,900
	0	0	0	0	0
白点病	0	0	0	0	0
	500	0	0	0	500
ミズカビ病	11,200	0	358	57	11,615
	18,900	0	50	0	18,950
ラッシュ	1,000	0	0	0	1,000
	0	0	0	0	0
不明	1,500	0	0	0	1,500
	2,850	0	200	0	3,050
合計	54,950	0	27,248	557	82,755
	72,295	0	7,500	490	80,285

上段：H27年  
下段：H26年

## トピックス

### 富士川のアユ資源に関する調査報告会が開催されました

富士川下流域の一部に漁業権を有する芝川観光非出資漁業協同組合は、減少するアユ資源や荒廃する河川環境を危惧して、株式会社アイエイアイ（静岡市）からの援助により、富士川におけるアユ資源調査を2か年行ってきました。平成28年2月12日、富士総合庁舎において、関係者26名を集めて報告会が開催されました。

調査実務を担当した高橋勇夫氏（たかはし河川生物調査事務所代表）から報告があり、「上流からの強い濁りにより富士川下流域は“死の川”となっている」「最下流に位置する四ヶ郷堰堤が河川生物の遡上を大きく阻害している」と指摘されました。

解決に至るには幾つものハードルがありますが、まずは現状を周知し、できるだけ多くの方に問題意識を持ってもらうことが重要です。豊かな富士川の復活に向けて、今後とも関係者と

ともに活動していきます。（鈴木邦弘）



調査報告会の様子

### 養殖生産工程管理研修会が行われました

平成28年2月23日に、会場において、静岡県水産資源課主催の養殖生産工程管理研修会が開催されました。

最初に、NPO法人水産資源回復管理支援会の下村政雄氏から、「養殖エコラベル(AEL)について」の講演がありました。AELは、一般社団法人日本食育者協会が国際基準「FAO養殖認証に関する技術的ガイドラインの要求事項」を基に、養殖水産物の安心安全の確保と養殖業の更なる発展を目的として平成26年2月から運用を開始した制度です。独立した認証機関が生産段階と流通加工段階のそれぞれで公平性のある審査を低コストで行うのが特徴です。

続いて、「富士養鱒漁協におけるしずおか農林水産物認証（県認証）への取組状況」を当场より紹介しました。富士養鱒漁協が2年間の取り組みを経て県認証を取得し、この冬から運用を開始したことなどを紹介しました。

総合討論では、安全安心で効率的な養殖業を実現させるために、各業界で記帳などの一歩を踏み出してみることなどが確認されました。

なお、本研修会は、養鰻、養鱒、養鮎、海面養殖など、普段は顔を合わすことのない養殖業者の交流の場ともなり、非常に有意義でした。今後も同様の研修会により交流が深まることを期待します。（鈴木邦弘）



研修会の様子

## 富士山麓食の都ワークショップ(にじます版)を開催しました

平成28年3月16日に、JA富士宮女性部員21名を対象として、富士山麓食の都ワークショップ(にじます版)を開催しました。

午前中はJA富士宮本店の調理室において調理講習を行い、ふじのくに食の仕事人である石川光博シェフを講師に招き、「虹鱒ベーコン巻きポワレ・トマトソテー添え」などニジマス料理計5品を製作しました。

午後は、会場を富士養鱒場へ移し、飼育池見学、給餌体験、採卵見学などを行いました。足元が冷える寒空でしたが、普段見ることのない養殖現場に大変満足されていたようでした。

今回のイベントは、JA富士宮ファーマーズマーケットでのニジマス販促を目的としていましたが、それ以上に、漁協とJAとのコラボということに大きな意味がありました。多くの関係者が協働することで、富士宮の美味しい食材が、美味しい料理に変身し、地域の活性化に繋がる

ことが期待されます。

(鈴木邦弘)



料理講習の様子と料理5品

## 第27回にじます祭が開催されました

平成28年3月6日に、富士山本宮浅間神社境内の流鏝馬馬場を会場に、第27回にじます祭が開催されました。今回は企画会議を重ね、餅まき(ひとくち甘露煮が当たり)、地元小中学校生徒児童による総合学習発表や富岳館高校によるニジマス商品販売など新しい企画をたくさん盛り込みました。

メインイベントは、前号でも紹介した『湧幻鱒のちゃんちゃん焼き』でした。6kgほどの湧

幻鱒2本分を使って贅沢に調理し、その様子を見ようと大勢が鉄板を囲み、140食分が完売となりました。ちゃんちゃん焼きは、これから富士養鱒漁協のイベントの際には提供して行く予定です。

にじます祭は、来年はさらにパワーアップして開催する予定です。来年も是非足をお運びください。(佐藤孝幸)





第 27 回にじます祭の様子

## 業務紹介

今年度は新たに非常勤職員に植松新造氏を迎えた他は職員の異動は無く、概ね前年度と同じ体制で業務を進めていきます。ニジマスの大型魚を低コストで生産する技術の開発を目指す新成長戦略研究をはじめ、河川での天然ウナギの資源生態研究などで得られた研究成果は、速や

かに情報発信すると共に、ニジマスの消費拡大のための6次産業化の推進や魚病対策などを継続して実施することにより、養鱒業の振興や河川に生息する魚に適した環境の維持・保全に寄与したいと考えております。

(平井一行)

職	氏名	主な担当業務
場長	平井一行	富士養鱒場業務の総括
主任	鈴木大樹	予算・庶務、観覧業務、庁舎等の保守管理
上席研究員	鈴木基生	試験研究の企画調整 全雌三倍体の品質向上研究 ニジマス新成長戦略研究（低コスト生産技術開発）
主任研究員	木南竜平	ニジマス新成長戦略研究（低魚粉耐性育種） 内水面漁業研究
主査 （普及指導員）	鈴木邦弘	ニジマス新成長戦略研究（大型魚販売推進） 普及指導（6次産業化、内水面漁業、広報）
主査 （普及指導員）	佐藤孝幸	普及指導（漁協経営支援） 魚類防疫対策（内水面養殖、海面養殖、内水面漁業）
非常勤職員	植松久男	試験研究補助、飼育管理、場内管理
非常勤職員	植松新造	試験研究補助、飼育管理、場内管理

## 富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) : mm (日)		湧水量 : 万 t /日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
2	224 (10)	92 (7)	3.56	3.12
3	155 (12)	205 (9)	4.04	3.43
4	292 (11)	229 (9)	4.39	4.51

\* 前年以前の20年間平均値

## 日誌

2月	3月	4月
2日 総合食品開発展(静岡)	3-4日 チョウザメ養殖先進地視察(宮崎)	5日 養鱒漁協職員月例会
5日 宮城内水試視察対応	6日 第27回にじます祭(市内)	8日 新成長戦略研究打合せ
5日 漁業士会総会(伊豆の国)	7日 普及成果報告会(焼津)	12日 普及月例会(焼津)
8日 養鱒漁協職員月例会	8日 養鱒漁協職員月例会	14日 危機管理調整会議(沼津)
9-10日 魚類防疫視察研修(岐阜)	9日 県単研究中間評価会(焼津)	14日 田子の浦漁協訪問(富士)
10日 紅富士ブランド化推進協議会検討委員会(市内)	14日 養鱒漁協衛生管理講習会	18日 海産アユ標識作業(裾野)
12日 富士川調査報告会(富士)	16日 魚病対策委員会(静岡)	19日 海産アユ標識放流(興津川)
15日 6次化ネットワーク連絡会(静岡)	16日 富士山麓食の都づくりワークショップにじます版(市内)	22日 にじます祭委員会(市内)
16日 養鱒協運営委員会(東京)	17日 普及課題設定協議会(焼津)	22日 県研究開発課長来場
17日 ななくさ会にじます講義(市内)	25日 都田川アユ産卵区域検討会(浜松)	25日 水産業制度融資会議(県庁)
18日 普及月例会(焼津)	27~29日 日本水産学会口頭発表(東京)	26日 新成長戦略研究打合せ(焼津)
22日 新成長戦略研究報告会(県庁)		27日 水産事業概要説明会(静岡)
23日 県認証研修会		27日 伊豆地域業者巡回
		28日 内水面漁連研修会(静岡)



富士養鱒場のマスコットキャラクター 「マスオ君」